

市内の年間救急出場件数は、この10年で約400件増加し、急病で搬送された人が多く、特に高齢者の占める割合が高くなっています。現場では、高齢者が一人暮らしであったり、家族が近くにいなかったりすると、普段の健康状態や生活の様子が分からず、症状の判断が難しい場合があります。日頃から健康

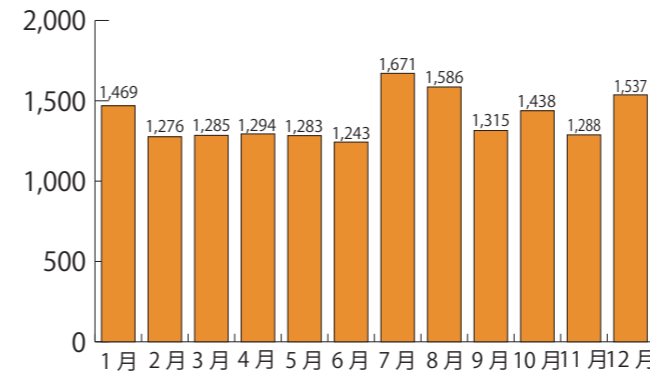
**救急出場件数は年々増加**



そのときどうしますか？

**救急車を呼ぶ前に知っておきたいこと**

救急車は、限りある大切な医療資源。一刻も早く真に必要な人へ、救急医療を届けるためには、一人ひとりの正しい理解と判断が欠かせない。夏を迎えるこの時期は、例年、救急要請が増える傾向にある。救急車を呼ぶべき症状や、迷ったときの対応など、今知っておきたいことを医療や救急の現場に携わる皆さんに伺った。



に気を付け、身近な人と体調の変化を共有することが大切です。

**夏に増える救急出場を防ぐために**

救急出場は、特に夏と冬に増える傾向があり、これからの時期は熱中症だけでなく、暑さによる急激な体力の消耗などで動けなくなり、救急搬送される事例が多くなります。高齢者は暑さを感じにくく、エアコンを使用しないまま過ごして、気付いたときには熱中症になっていたりすることがあります。適切にエアコンを使用し、水分補給を行うなど、日頃から暑さを避ける行動を心掛け、熱中症を予防しましょう。

**救急医療を守るために普段からできること**

かかりつけ医を持ち、定期受診や健康診断を受けることで、病気の早期発見や重症化を防ぐことができます。日頃から健康管理を心掛けることで、自身の健康を守るだけでなく、救急医療を真に必要とする人が適切な医療を受けられます。

**救急車を呼ぶときは**

～救急医療を必要とする人に、適切な医療を届けるために～

**迷ったときは、#7119に電話相談を**

救急車を呼ぶべきか迷ったときは#7119に相談してください。

医師や看護師などが症状を聞き取り、救急車を呼ぶべきか、すぐに病院を受診した方が良いかなどの助言や、近くの医療機関を案内します。

電話番号	通話料	受付時間
# 7119	固定ブッシュ回線及び携帯電話 (NTTドコモ回線、楽天回線)は無料。その他の携帯電話は有料。	24時間
0120-79-7119	無料	365日
909-9935	有料	

**こんなときは#7119**

- 家族の様子なんとなくおかしいが、救急車を呼んで良いか分からない
- 体調が悪いが、救急車を呼ぶべきか近くの病院を受診すべきか分からない

☎警防課 ☎ 964-5217

**緊急時は、ためらわず119番通報を**

「呼びかけても反応がない」、「耐えきれない激しい痛みがある」、「ろれつが回っていない」、「けいれんしている」、「手足に力が入らない」、「普段歩ける人が動けない」など明らかに普段と違う症状があり緊急を要する場合は、ためらわず119番通報をしてください。

**救急医療情報キットをご活用ください**

持病、かかりつけ医、飲んでる薬、緊急連絡先などを記載した用紙をキットに入れ、冷蔵庫で保管してください。本人が伝えることができなくても、駆けつけた救急隊員がキットの中身を確認することで迅速に対応できます。



◇配布場所…社会福祉課、川内支所、市社会福祉協議会

☎社会福祉課 ☎ 964-4406



**救急医療の現場では、患者さんの集中が課題に**

救急医療の現場では、一度に患者さんが集中することが大きな課題となっています。例えば、短時間に救急車が何台も到着することがあり、過去に7台続けて患者さんが搬送されたことがあります。救急車で搬送された患者さんは、優先して診察し、重症かどうかを判断する必要があります。一人当たり数分でも、何人も続くと、真に緊急な対応が必要な重症患者さんへの対応が遅れてしまいます。救急医療を必要としている患者さんへ速やかに医療を届けるためにも、必要だと感じたときはためらわず119番通報し、迷った場合

は#7119へ相談することが、適切な医療の提供に繋がります。

**高齢者や子どもは、家族の気付きが鍵**

高齢者や子どもは、自分の症状を上手く伝えられないことがあります。高齢者は、重い病気でも熱が出にくく、子どもは体調不良を言葉で表現できず、機嫌が悪くなるだけの場合もあり、重症であっても周囲が異変に気付きにくいことがあります。「元気がない」、「反応が鈍い」など、異変を感じた際は、早めに医療機関を受診しましょう。症状が重い場合や緊急性が高いと感じた場合は、119番通報してください。

**高齢者は日頃からの準備を**

高齢の患者さんは複数の持病を抱えていることが多く、適切な診療には本人や家族からの情報が欠かせません。いざというときに備え、通院先や持病、服用している薬などの

情報を日頃から整理し、家族で共有したり、すぐに確認できるようにしておきましょう。また、人生の最終段階における医療においても、いざというときに本人の意思が確認できないことがあります。日頃から考えを共有しておくことで、本人の意思を尊重した医療を行うことができます。

**熱中症の危険サイン**

これからの時期は、熱中症による搬送が増加します。熱中症が疑われる場合、意識がない、けいれんがあるといった症状のほか、特に注意したいのは、「自力で水を飲めない状態」です。熱中症の際は、脱水が進行しているため、水分補給が極めて重要です。自力で水分を摂れない場合は、重症化している可能性があります。「意識があるから大丈夫」と自己判断せず、速やかに医療機関を受診してください。症状が重いと感じた場合は、ためらわず119番通報しましょう。